一般部門

9 水辺施設ウォーターフロントこまなき

～自然との共生と利活用～

1 社会資本の概要

佐賀県北西部を流れる松浦川は自然の恵みをもたらすとともに、大きく蛇行する伊万里市駒鳴付近では、たびたび洪水による被害をもたらしてきました。捷水路が平成16年度に完成したことで安全性は高まりましたが、旧河川の利活用を考えたとき、多くの住民から「ホタルが舞う環境だけは絶対に残したい」と声が上がりました。「ウォーターフロントこまなき」は地元と行政が話し合いを重ね、自然環境に配慮しつつ安全に水辺に近づくことができるように、お年よりや小さな子供の利用を意識した、やさしい水辺施設です。

堤防の整備によって松浦川本流の急な増水にも直接影響を受けることなく、川遊び、生き物探し、カヌーやサップなど安全に楽しむことができます。

駒鳴集落と松浦川

駒鳴を蛇行する松浦川

親水護岸

2 取組の背景、取組概要と創意・工夫

駒鳴地区の河川改修において、ホタルが舞う駒鳴の自然を次世代に残したいとの思いから、地元住民で当会を立ち上げ、環境保護活動を開始しました。また、少子高齢化が進む駒鳴地区の活性化のため、豊かな自然をモチーフとした各種イベントを実施し、地域活性化と自然環境保護の両立に取り組んでいます。

インストラクターによる生き物探しやカヌー体験ができる「ふるさとの水辺で遊ぼう」、映画のロケ地となった駒鳴駅をはじめ、駒鳴の見どころを巡る「フットパス」など自然と触れあうイベントは好評を得ています。水に入るときは参加者にライフジャケット、ヘルメットを貸与し、水辺遊びにおけるライフジャケット等の着用徹底を呼びかけ、川遊びの注意点について説明しています。

また、これらのイベントの前後には参加者全員で河川清掃を行うなど、河川愛護意識の啓発にも努めています。

ふるさとの水辺で遊ぼう

フットパス（散策）の様子

イベント後の清掃

駒鳴集落を守る会

佐賀県 伊万里市

3 活動の成果や波及効果等

テレビや新聞の紹介で、都市近郊からのイベント参加者、利用者が年々増加し、都市部と地域住民との交流も芽生えました。何もないところと思っていた駒鳴が注目されるようになり、地域住民は郷土に対する誇りと魅力を再認識できました。イベントで提供する昼食等は、婦人会が地元の食材で心を込めてつくり、地域循環共生圏の創出による持続可能な地域づくりの一歩としたいと考えています。

地元で行った川床での「芋煮会」は、あまり交流がなかった住民とも顔なじみになり、地域のコミュニティーの場としても活用しています。

過疎化が進む駒鳴で昔から地域の足を支えてきた「駒鳴駅」。駅の存続は、駒鳴地区活性化に深刻な影響を与えるため、イベントにおいては電車での来場を呼びかけ、電車での来場者に地元の特産品をプレゼントするなど、駒鳴駅の利用促進を呼びかけています。

子供達はいずれ都会に就職して家庭を持ちますが、小さい頃に体験した楽しい思い出は一生残ります。郷土である駒鳴にいずれ帰ってくるよう、そして更にその子供達が「自然との共生」を体験できるようこれからも活動を続けてまいります。

夏の思い出

川床で芋煮会

除草作業

河川美化活動　花植え

喜びの声

受賞者

駒鳴集落を守る会
代表
野﨑 忠秋

コメント

この度は手づくり郷土賞に選定していただきありがとうございます。平成28年5月に区民の強い要望で完成した水辺施設は5年が経ち、この間における住民の自発的な維持管理と、納涼川床体験や環境学習の生き物探し又カヌー・サップ体験などの利活用が高く評価されたものと思っています。今回の受賞を糧に区民が安全に安心して住み続けられる川まちづくり、自然との共生を目指した活動を続けて行きたいと思います。

活動の内容

- 環境保護活動　●除草活動
- 自然体験「ふるさとの水辺で遊ぼう」
- 納涼川床体験　●環境学習「生き物調査」
- フットパス体験会

活動の経歴

平成29年　駒鳴集落を守る会設立
平成29年　環境保護活動・除草活動開始
令和 2 年　ふるさとの水辺で遊ぼう開始
令和 3 年　武雄河川事務所河川功労表彰
　　手づくり郷土賞（一般部門）受賞

所在地　佐賀県伊万里市大川町駒鳴地先

活動主体及び連絡先　駒鳴集落を守る会　TEL:0955-29-2124

対象となる社会資本　ウォーターフロントこまなき　管理者:伊万里市
一級河川松浦川　管理者:国土交通省武雄河川事務所